大学授業に Solution-Focused Brief Therapy を適用した WOWW プログラムの効果

○石丸雅貴¹・伊藤義美²

(¹金沢工業大学基礎教育部・²名古屋大学大学院環境学研究科)

キーワード: WOWW プログラム、授業理解度の自己評価、準実験法

An effect of the WOWW program applying Solution-Focused Brief Therapy to a university class

Masaki ISHIMARU¹ and Yoshimi ITO²

(¹Academic Foundations Programs, Kanazawa Institute of Technology, ²Graduate School of Environmental Studies, Nagoya Univ.)

Key Words: The WOWW program, self-evaluation of class understanding, quasi-experimental method

目 的

Solution-Focused Brief Therapy (以下 SFBT) は心理療法の一つであり、問題や原因に注目するのではなく、問題が起こらなかったときや、すでにうまくやっていることに焦点を当て、解決構築を行うという特徴を持つ。

そして、SFBT の考え方や技法を学校教育に適用し、教育の質を向上させようとするものとして、Working on What Works (以下 WOWW) プログラムがある。WOWW は第三者のコーチが授業に参入し、生徒たちの授業を受けている様子を観察する。そのうえで、授業の終わりに生徒たちの良かった行動をフィードバックするという手続きをとる。

WOWW を実践することで、生徒の授業態度が良くなるという報告がなされている(Kelly & Bluestone-Miller, 2009; Brown, Powell & Clark, 2012)。

また、石丸・相模 (2011) は授業態度が良くなることから授業理解度にも良い影響を与えることを予測し、大学生を対象に WOWW を実践し、大学生に授業理解度を自己評価させ、通常授業と比較することで、WOWW の効果を検討した。その結果、WOWW を実践することで、授業理解度の自己評価が高まることを明らかにした。

しかし、石丸・相模 (2011) の研究には問題点が多く、WOWW を実践した授業と通常授業に参加した学生の等質性が保たれていないこと。また、授業理解度の自己評価が高まったのは WOWW 自体の効果なのか、コーチが存在したことによる観察者効果なのか、または、授業自体に対する学生の評価が影響しているのか、など明確になっていない点が多い。そこで、本研究は準実験法を用いることで学生の等質性の問題を解消し、さらに、コーチを用いらずに学生自身が自分の良かった行動を振り返り、報告することでコーチの観察者効果を排除する。そのうえで、授業理解度の自己評価が高まるのか検討することを目的とする。

方 法

参加者: 大学生 42 名 (男性 25 名, 女性 17 名) であった。

刺激: 授業理解度の自己評価 (10 件法, 1: 分からなかった ~ 10: 分かった), 授業に対する満足度 (10 件法, 1: 低い ~ 10: 高い) を測定するために質問紙を用いた。

手続き: 準実験法を用いて実施した。全 12 回の授業のうち、1 回目から 4 回目までをベースライン, 5 回目から 8 回目を WOWW 実施, 9 回目から 12 回目をフォローアップに設定した。そして、第 1 回目の授業をベースライン 1, 第 4 回目をベースライン 2, 第 8 回目を WOWW, 第 12 回目をフォローアップとして、質問紙を実施した。

ベースライン 1, 2 及び、フォローアップ: 授業終了時に、授業の感想を報告してもらった後、質問紙を実施した。

WOWW 実施: 授業終了時に、授業に頑張った行動を振り返り報告してもらった。その後、質問紙を実施した。

結 果

図 1 に各時点における授業理解度の自己評価及び、授業に対する満足度の評定を示した。

授業理解度の自己評価では、他の時点に比べて、WOWW の時点で有意な上昇がみられた ($F(3, 123) = 7.42, p < .01$)。しかし、授業に対する満足度については、どの時点にも有意な差はみられなかった ($F(3, 123) = 0.20, p < .89$)。

図 1 授業理解度の自己評価及び、授業に対する満足度の評定

考 察

大学授業で WOWW を実施することにより、学生が抱く授業理解度の自己評価が高くなることが分かった。この結果は石丸・相模 (2011) と一致する。

また、授業に対する満足度がどの時点でも変化していないことから、授業に対する学生の評価は影響していないことも明らかとなった。さらに、コーチがいなくても効果がみられていることから、観察者効果の影響はなく、WOWW プログラム自身が持つ効果だと考えることができる。

引用文献

- Brown, E.L., Powell, E., & Clark, A. (2012). Working on what works: working with teachers to improve classroom behavior and relationships. *Educational Psychology in Practice*, **28**, 19-30.
- 石丸雅貴・相模健人 (2011). 大学授業における WOWW アプローチ実践の効果: 学生の授業理解度をもとにして、ブリーフサイコセラピー研究, **20**, 39-47.
- Kelly, M.S., & Bluestone-Miller, R. (2009). Working on what works (WOWW): Coaching teachers to do more of what's working. *Children & School*, **31**, 35-38.